



三蔵五訓

真理を探求し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。

2014.12.10 Vol. 142



揺るぎなく前進！

トピックス	1
第40回 三蔵祭	6
拡がる教育	8
地域連携活動	9
研究の今	12
留学等体験記	13
学友会短信	14
後援会情報	15
入試広報室から	15

TOPICS

中国新聞へ「揺るぎなく前進」を掲載！

創立以来、変わらぬ理念のもと、社会のニーズに応えて教育改革に取り組み、西日本有数の私立総合大学として歩み続ける福山大学は、多彩な教授陣による5学部の特色ある学びを、全6回のシリーズ広告として中国新聞へ掲載しました。

第1回目は、7月13日(日)に『受け継がれる「創立者の思い」』及び『自ら考える力をつけるアクティブ・ラーニング』というテーマで松田文子学長に、『全学をあげて教育改革を推進』というテーマで松浦史登副学長(教学担当)に、『地域から世界へ。グローバルな対応力を養う』というテーマで富士彰夫副学長(涉外担当)に、『国際比較の観点から教育のあるべき姿を探求』というテーマで大学教育センターの大塚豊教授に登場していただきました。第2回目は、7月19日(土)に『企業や消費者の動向を見る「ミクロ経済学」』及び『成長のための厳しい指導』というテーマで経済学部税務会計学科の中沢孝夫教授に、『国全体の経済を見る「マクロ経済学」』及び『経済学はダイナミックな学問』というテーマで同学部経済学科の早川達二教授に登場していただきました。第3回目は、8月3日(日)に『現場感覚を講義に取り入れる』及び『徹底した地域貢献で大きく成長』というテーマで人間文化学部心理学科の平伸二教授に、『3DCGで地域の景観を再現』及び『企画力・提案力を育てる』というテーマで同学部メディア情報文化学科の中嶋健明非常勤講師に登場していただきました。第4回目は、8月10日(日)に『バイオ燃料エンジンなどの試作で手応えある授業を』及び『工学系女子に広がる活躍の場』というテーマで工学部機械システム工学科の内田博志教授に、『システムに隠れるさまざまなことを統計分析で「見える化」』及び『超小型衛星を活用する新しい研究を計画中！』というテーマで同学部スマートシステム学科の関田隆一准教授に登場していただきました。第5回目は、8月17日(日)に『食料となる魚の増養殖技術の開発』及び『海洋生物をテーマに連携する4つのコース』というテーマで生命工学部海洋生物科学科の有瀧真人教授に、『福山大学ワインプロジェクト始動』及び『一連の体験で発酵科学を学ぶ』というテーマで同学部生物工学科の吉崎隆之助教に登場していただきました。そして、最後の第6回目は、8月23日(土)に『疾病予防の支援も薬剤師の役割』及び『4,000名を超える卒業生が後輩を支援』というテーマで薬学部薬学科の杉原成美教授に、『大学でしかできない「研究」の楽しさを伝えたい』及び『6年間モチベーションが保てる熱心な指導』というテーマで同学部同学科の渡邊正知准教授に登場していただきました。

福山大学は、今後も海外や社会との連携を強め、地域に貢献する人材を輩出する大学として、揺るぎなく前進していきます。

総務部 企画・文書課



第1回



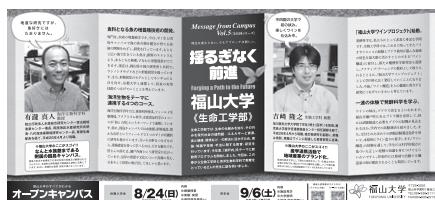
第2回



第3回



第4回



第5回



第6回

文部科学省 平成26年度『私立大学等改革総合支援事業』に選定！

教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する事業である『私立大学等改革総合支援事業』の「タイプ1」及び「タイプ4」へ、福山大学が選定されました。

■タイプ1「教育の質的転換」

全学的な体制での教育の質的転換(学生の主体的な学修の充実等)を支援。

■タイプ4「グローバル化」

語学教育強化、国際環境整備、地域の国際化など、多様なグローバル化を支援。

経理部 用度課

文部科学省 平成26年度『私立大学等教育研究活性化設備整備事業』に採択！

福山大学では、学生の自律的学修習慣の修得を目指して、様々な学修手法を積極的に導入してきました。さらに、これまでの取り組みを基盤として、学生がもう一段高い能力を修得するための学修環境整備を目指して、新たに7号館へプロジェクトラウンジ(仮称)を整備します。また、ICTを活用した教育開発のための教員指導や研修にも活用する計画で、これらの取り組みが評価され、『私立大学等教育研究活性化設備整備事業』に採択されました。

経理部 用度課

私立大学で最初に薬学教育評価機構から適合認定！

薬学部は、平成26年3月31日付で私立大学として最初に薬学教育評価機構により、適合認定（平成26年4月～平成33年3月）を得ました。

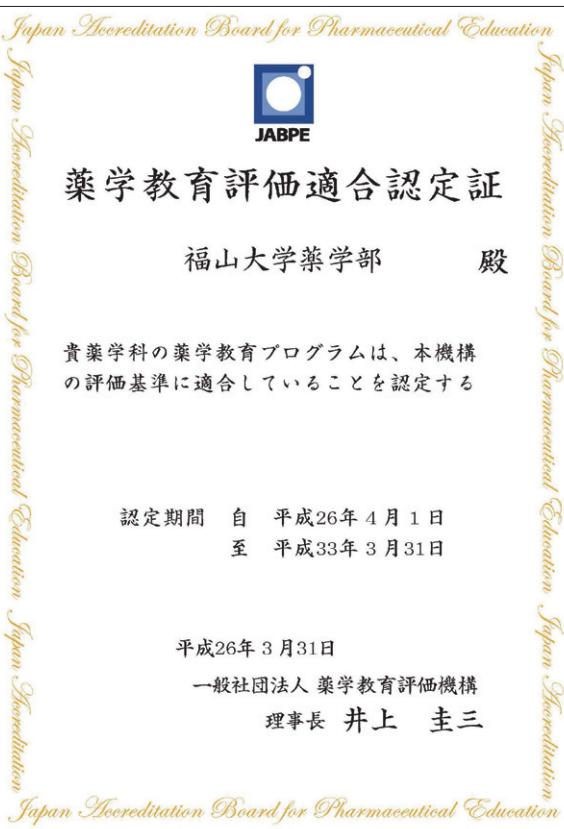
平成18年度から臨床を重視し、質の高い医療人育成を目的に、6年制薬学教育がスタートしました。年限延長を答申した中央教育審議会は、「医療人の養成を目的とする分野は、国民の命を預かり、健康を確保するという重大な任務を負う人材を養成することから、その教育研究等の状況に関する社会の関心も高い」と指摘し、「社会からの要請に応えた医療の担い手としての薬剤師の養成のための教育が行われていることについて、十分な検証と適正な評価を行うことが求められる」として「薬学教育の改善・充実について」（平成16年度）において、第三者による薬学教育の質的保障が提言されました。さらに、年限延長に関する法改正において、第三者評価の実施が付帯決議として要請され、平成

20年12月に各薬科大学・薬学部、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会及び日本薬学会を社員とした「一般社団法人薬学教育評価機構」が発足しました。薬剤師や医師などの国家試験受験資格は、他の国家試験の受験資格とは異なり、資格科目や単位数の規定ではなく、卒業することが受験資格取得要件になっています。言い換えれば、生命に関わる医療人の養成には『全人的教育と一体となった専門教育』が必須であるにもかかわらず、その教育プログラムは個々の大学に委ねられています。そのため、薬科大学・薬学部は、薬学教育モデル・コアカリキュラムによって一定の標準化を図るとともに、『医療人としての薬剤師』を養成するための教育内容の質と量を満たしていることを社会に対して保証する必要があります。このように、薬科大学・薬学部が「人命を預かり、多くの人の健康を確保する、重大な任務を負う」ことにより、医療人を養成する使命を持つことから、薬学教育評価機構は「機関別評価」とは異なり、大学院以外で初めての特定の分野に対する「専門分野別評価」を学部レベルで行っています。薬学教育評価機構が定める評価基準は、「医療人としての態度・知識・技能に関する教育が導入教育から体系的・継続的に実施され、専門教育と教養教育がバランスよく行われているか」に加え、「薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した教育内容が実施されているか」「実務実習事前学習や薬学共用試験が適正に行われているか」「実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠した実務実習が適切に実施されているか」「問題解決能力の醸成に向けた教育が体系的かつ効果的に実施されているか」、さらに「成績評価、進級、学士課程修了認定が公正かつ厳正に行われているか」などが基本となっています。

本学部に対する薬学教育評価機構の評価は、以下のとおりです。『アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーに基づき、総合大学である利点を生かし、多様な教養教育科目が開講されており、語学力を養う教育も体系的に行われている。また、専門科目については、教育目標に基づき、医療人教育に重点を置いたプログラム構成となっている。特に、患者を含む医療チームで薬剤師としての役割を果たすために、2年次では「コミュニケーション」で幼児や高齢者との積極的なかかわり方を、高学年では「医療コミュニケーション」「生命倫理」「病棟での看護師医療体験」等の科目で、患者の心理や医療人相互の信頼関係の構築について参加型・体験型の学習方法を取り入れ、体系的に学習するプログラムを実施していることは特徴ある教育として評価できる。実務実習については、事前学習と薬学共用試験で参加学生の能力を保証したうえで、調整機構との連携に基づき、病院実習及び薬局実習をいずれも実務実習コアカリキュラムに沿った内容で実施している。特に、実習先のそれぞれの地域別に実務実習担当施設を担当する教員チームを編成し、実習期間中に「地区別セミナー」を行っていること、実習終了後にワークショップを開催し、「実務実習後学習」という授業科目によって、実務実習の総合的な学習成果を高めるようにしていることは特徴的で評価できる。その他、入学者選抜については、アドミッション・ポリシーに基づいて適切に行われており、学生の支援、学習環境についても適切である。特に、参加型、能動的学习を少人数で行うことを重視し、そのための施設・設備が充実していること、図書館以外にも自習室を十分に確保していることは評価できる。』

一方で、次のような問題点の指摘も受けました。『卒業研究に対応する「課題研究」の単位認定に、学科試験の合否を条件としていること、ディプロマ・ポリシーに、この学科試験により学士課程の修了認定を行うと記載していること、これまで不認定になつた者がいないとはいえ、薬学共用試験OSCEの合否によって事前学習の単位修得を認定する制度は問題がある。』なお、この件については、既に薬学教育評価機構への改善報告案を提出し、承認の内諾を得ています。その他、薬剤師養成教育に必須の科目の必修化や卒業研究に対応する「課題研究」の時間数の確保についても問題があると指摘を受けましたが、これらについては平成27年度から始まる改訂コアカリキュラムに対応したカリキュラムにおいて、十分に対応できるように工夫しています。なお、専任教員1人あたりの学生数が多く、その結果、教員の授業担当時間数が多くなっているので、今後は若手教員の増員を図るなど、改善する必要があるとの指摘に対しては大学や法人と連携し、改善していく所存です。

薬学部 教授 岡村 信幸



武道場, サッカー場人工芝, 野球場防球ネット, クラブハウスの改築及び新築について

剣道部は、常に全国大会での活躍を目標に厳しい稽古を続けてきました。平成6年には、女子団体で全日本女子学生剣道優勝大会への初出場を果たし、平成7年には、男子団体も全日本学生剣道優勝大会に初出場しました。男子団体はこれを皮切りに、これまでに中四国地区大会で優勝1回、準優勝2回、第3位4回という輝かしい戦績とともに、全国大会9回の出場を誇っています。その剣道部も、昭和50年の福山大学開学とともに歩み始め、間もなく40年の歴史を刻もうとしています。武道場も、昭和52年から剣道部の稽古を見守り続け、そして、その床は永年に亘り剣道部員の切磋琢磨を文字通り支え、そして社会に送り出してきてくれました。さすがに床の痛みは激しく、この度全面的に張り替えることになり、工事は今年の2月7日(金)より4月11日(金)まで行われ、剣道場は既存のフローリングを全面撤去し、新しく暑さ18mmのブナ材の複合フローリングを張り、ウレタン塗装を3回塗りました。さらに、柔道場は老朽化した畳の床下地を撤去し、ユニットフロアに新設しました。また、サッカー部や硬式野球部についても、過去に多くの輝かしい実績を持つ福山大学が誇る体育会系クラブです。今季の活躍についても、サッカー部は第38回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントへ出場し、硬式野球部も第63回全日本大学野球選手権大会へ出場いたしました。この度、両サークルが使用する施設についても、武道場の改修と併せて工事を行いました。工事の内容としては、サッカー部は人工芝の改修、硬式野球部は防球ネットの設置で、さらに新しくクラブハウスも新築しました。サッカー場の人工芝改修工事については、施行方法はオーバーレイ工法で既存の古い人工芝を下地とし、その上に新しい人工芝を敷設する工法です。現地施工期間が短く、古い人工芝の撤去廃棄費用がかからないのが特徴です。なお、同施工実例としては、現在、Jリーグ2連覇中であるサンフレッチェ広島の練習場がある吉田サッカー公園があります。また、硬式野球場の防球ネット設置工事については、施工理由として硬式野球場とサッカー場は隣接しており、施工時に設置した防球ネットでは高さが低いため、サッカー場へのファールボールをすべて防ぐことができない状態で、危険性もあり、事故防止のために20メートルの高さのネットを整備しました。最後は、サッカー部及び硬式野球部用のクラブハウスの新築です。2階建ての鉄骨造で、各サークルの部室がそれぞれ1室ずつあります。さらに、対戦相手選手控室が2室もあり、審判室も1室あります。もちろん、シャワールームも完備しています。

このように、サークルの活躍には学生の努力とともに施設設備の充実が必要ですが、その施設がかなり老朽化していたため、この度、福山大学としてはより一層の施設設備の充実を図るべく改修工事を行いました。

総務部 企画・文書課



サッカー部が、総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントに続いて全国大会へ出場！



サッカー部が、第38回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントへの出場に続いて、第37回中国大学サッカーリーグでも優勝し、12月11日(木)～21日(日)までの期間、東京の味の素フィールド西が丘他で開催されます「第63回全日本大学サッカー選手権大会」への切符を手にしました。リーグ戦では、前期からの好調を維持し、残り2試合を残した時点で優勝が決定するという圧倒的な勝利でした。サッカー部の強みは、選手たちのひたむきさと真面目さです。全国大会でもチーム一丸となって前に進んでいきたいと思いますので、ご声援のほどよろしくお願ひいたします。

総務部 企画・文書課

J S T 「さくらサイエンスプラン」に採択！

福山大学は、(独)科学技術振興機構(J S T)の補助金事業である平成26年度第1回「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」(通称「さくらサイエンスプラン」)に応募し、全国316件にのぼる応募の中から採択されました。このことは、本学の豊富な国際交流の実績及び工学部の充実した事業計画並びに将来の優秀な理系の留学生が、当地で学び就職する可能性等が評価されたことであり、とても有意義であると考えています。

「さくらサイエンスプラン」とは、産学官の緊密な連携により優秀なアジアの青少年が日本を短期間訪問し、未来を担うアジアと日本の青少年が科学技術の分野で交流を深めることを目指すものであり、日本の大学・研究機関や企業が必要とする海外からの優秀な人材の育成に貢献することを目的としています。今回は、本学が学術教育交流協定を結んでいる中国の貴州師範大学から多数の特許を持っている学生や国家または省レベルの機関研究誌に研究論文を発表し、各種の表彰をもらっている学生など、極めて優秀な9名が選抜されました。9月7日(日)～9月13日(土)までの1週間という短い期間ではありましたが、工学部での授業(スマートシステム学科「センサー応用マシンのプログラミング設計」、建築学科「地震と耐震について知ろう」、情報工学科「ヒューマンコンピュータインタラクション体験」、機械システム工学科「3次元CADを利用したモノづくり」)を受講後、ツネイシホールディングス(株)やマツダ(株)などの地域を代表する企業、倉敷科学センター、広島平和記念資料館の見学など、備後地域の素晴らしい技術とモノづくりの楽しさに触れました。

大変過密な日程にもかかわらず、毎日、目を輝かせながら各種活動にどんどん取り組んでいる学生たちは「科学発明が新鮮で、原理は簡単であるが、このように応用する考え方を学ぶべきです。見学で日本の科学技術に対して再認識ができ、これから勉強の中で細かい変化にも注目しながら、成果を上げていこうと思います。」「工学部の授業を通じて、日本人の独特的な思考と先進的な技術に触れることで、自らの不足を再認識し、まるで洗礼を受けたようでした。是非、また日本に来て勉強したいと思います。」「大変短い期間でしたが、私に劇的な変化をもたらしました。福山大学における革新的な教育施設と教育方法に感銘を受け、日本文化と高度な技術力をよりよく理解できるようになりました。」などの感想を残し、別れを惜しみつつ、帰国の途に就きました。

国際センター国際交流部 許 霽



生物工学科が推進する「福山大学ワインプロジェクト」



シャインマスカットの収穫



醸造した赤ワインを囲んで



果実酒(ワイン)の製造免許

生物工学科は、生命の仕組みを解き明かす基礎的分野と生物の持つ力をを利用して人の生活を豊かにするものを作り出す実用的分野の両輪を支えとして、バイオの教育・研究を進めてきました。本年度から、学科の特長を「瀬戸内の里山からはじまる食と環境のバイオサイエンス」という言葉で表現し、人と自然(生物)が共生する豊かな暮らしの構築を学科のポリシーに設定しました。福山大学は、瀬戸内海のほぼ中央に位置し、多島海を臨むたおやかな山並みを背景にした豊饒な土地に立脚しています。日照時間も日本で有数に長い土地柄で、農作物は豊かに育ちます。生物工学科では、このような地域の特性を活かして、地域特有のオンラインの生物生産品の開発・発信を目指しています。その1つが、「福山大学ワインプロジェクト」です。これは、地場の特産でブランドにもなっているブドウを自家栽培し、生物工学科が培ってきた微生物による発酵技術の粋を活かして、地域特有のオリジナルなワインを醸造・開発するというプロジェクトです。このプロジェクトが目指すところは、大学が知の拠点となって地域の活性化を促すことであり、これを通じて、生物工学科が積み重ねてきた研究力が遺憾なく発揮され、1年次から4年次までの4年間という長期にわたるアクティヴ・ラーニングにより学生の学びと達成感を導き出すことがあります。また、地場に棲息する酵母を分離・育種してワイン醸造へ適用することやワインの成分を分析して健康科学につなげることなど、幅広い教育・研究の進展が期待されます。将来的には、福山大学から世界に羽ばたくような醸造家を輩出したいとも考えています。さらに、生物工学科では、50本のブドウの樹が育つ約10アールのブドウ園を地元農家の好意で福山市瀬戸町に借り受け、教員や学生が一丸となって、赤ワイン用のマスカット・ベリーAと白ワイン用のシャインマスカットを大切に育てています。本年、9月には合わせて約500kgのブドウを収穫することができました。また、本年の8月7日(木)には、国税庁より福山大学に対して正式に3種(果実酒:ワイン、甘味果実酒、ブランデー)の試験製造免許も交付されました。これらの酒類試験製造免許の取得は、中四国の大学では初めてのことです。さらに、東広島市にある国税庁の研究機関である(独)酒類総合研究所との間で醸造技術や学生教育の連携も進めています。現在、マスカット・ベリーAを原料にした赤ワイン、シャインマスカットを原料にした白ワインの醸造を終えて熟成中です。まもなく、関係者の方々にお披露目できる日が来ることと思います。また、一般市民の方への広報も兼ねて、ワインボトルのラベルデザインを公募することも考えています。どうぞ、ご期待ください。なお、学内の2か所でも、ブドウの苗木を植えて育てています。どこにあるのか、学内を探索してみてください。最後に、生物工学科のフェイスブックページを紹介します。「福山大学ワインプロジェクト」関連の投稿も随時更新していますので、検索のうえ、お立ち寄りいただけましたら光栄です。

生物工学科 教授 久富 泰資

学生ボランティア団体“福山ひなた教室”が助成金を獲得！

人間科学研究科修士課程1年生の三村幸恵さんが代表を務めている学生ボランティア団体“福山ひなた教室”的企画が、平成26年度広島県こども夢基金活動助成事業の助成金に採択されました。三村さんは、児童臨床心理学研究室（金平ゼミ）に所属しており、福山と尾道で学部生たちと一緒に、発達に困難さを抱えた子どもたちを対象に支援活動を行っています。具体的には、毎週木曜日に福山と尾道で、一人ひとりの子どもの状態に適した個別の学習支援を実施しています。また、月に1回、コミュニケーションや対人関係に困難さを持つ児童を対象に、小集団でのソーシャル・スキル・トレーニングも実施しています。さらに、研究では発達に支援を要する児童の家族研究ということで、特にインタビューを通した家族の感情表出に焦点を当てています。このような活動を行っていく中で、今年度、三村さんが中心となり学生主体のボランティア団体“福山ひなた教室”を立ち上げました。「発達に困難さを持つ子どもたちにとって、あたたかい日向のような場所となるように！」というコンセプトの下、“福山ひなた教室”という名称に決定しました。心理学科及び人間科学研究科に在籍する大学生及び大学院生13名が中心となり、発達に困難さを抱えた子どもの支援活動に参加する熱意のある学生たちで組織されています。

一方、広島県こども夢基金活動助成事業の助成金は、ひろしまこども夢財団が広島県教育委員会と連携し、子どもの体験を促す活動を支援することを目的として「広島県こども夢基金」を設け、この活動を企画・実施する若者の組織の活動に対し、助成金を交付するものです。具体的には、広島県に居住及び通学している若者の団体または個人が、子どもに夢を与えて体験を促す活動を対象としています。“福山ひなた教室”では、大学生及び大学院生が中心となり、ソーシャル・スキル・トレーニングのプログラム終了後に最後のまとめとして、参加した仲間とのより体験的な関係作り及び今後の活動への動機づけの促進を目的としたクリッキングイベントを企画しました。今回、このイベントをより充実させるため、三村さんが企画・立案した内容を書類にして応募した結果、その必要性が認められて助成の対象に選ばれました。三村さんは、この助成金を獲得したこと、今後もますます学生主体で発達に困難さを抱えた子どもたちやその家族への支援活動や研究を実施していくことを意気込みを語っていました。今日、大学生及び大学院生にとって、地域でのボランティア活動は主体的な学びと成長における重要な機会となっており、支援を受ける子どもと学生の双方にとってメリットが高いと思われます。今後も三村さんのようなボランティアリーダーを目指し、後輩が育つことが期待されます。

心理学科 助教 金平 希



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連携大学地域巡回フォーラムを開催！

福山大学と東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、8月6日（水）に学校法人福山大学宮地茂記念館において「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会連携大学地域巡回フォーラム」を開催しました。中国地方における14大学の学生や教員、広島県庁及び岡山県庁を含めた行政関係者など約60名が参加し、意見交換会を実施しました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、6月23日（月）に「オリンピック教育」の推進などを目的に、福山大学を初めとする全国552大学と協定を締結しており、大学連携協定後の初の取り組みとして各校の特色を活かした活動の参考にするため、意見を聞くフォーラムを開催していくことになりました。その栄えある第1回目の地域巡回フォーラムが、日本全国にさきがけ、福山大学で開催されたのです。参加した学生からは「オリンピック競技のスポーツ教室だけではなく、パラリンピック競技の体験会を実施すべき」、「ボランティアの魅力をSNSで伝えたい」、「体育館の床はLEDを使用した電光掲示板を使用し、複数競技が実施できる最先端の体育館を作るべき」、「地域で開催されているスポーツ教室やスポーツ大会に、大学生が積極的にボランティアとして参加して支援することで、生涯スポーツの推進や競技スポーツの強化に貢献したい」、「パラリンピックの認知度がまだ低いと感じるので、障害者スポーツを支える活動をしていきたい。例えば、大学生が地域の障害者スポーツ団体の練習会などで、ボランティアとして参加したい」などの質問がなされました。また、教員からも「平和教育のプログラムで、原爆のことなどを参加者に対し、平和へのメッセージを発信してもらいたい」、「いろいろなスポーツの大会で応援バスツアーを実施しているので、留学生も含めてオリンピック・パラリンピックの応援バスツアーを企画したい」などの質問がなされました。さらに、行政からも事前キャンプやオリンピック・パラリンピック講座の開講及びグローバル人材育成との関連についてなど多くの質問がなされ、活発な議論が展開されました。そのため、予定時間通り越してフォーラムは無事に終了しました。

共催である福山大学の担当者としましては、活発で“ホット”な議論が展開されたことと、無事終了した“ホット”と、安堵しております。今後も東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、全国を9ブロック（北海道、東北、首都圏、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄）に分け、大学の特色を活かした活動方法や大学と地域との連携活動など、学生・教職員、行政関係者などにご参加いただき、意見交換を行っていきます。

福山大学は、連携協定校として、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、中国地方における中心となってオリンピック・ムーブメントを推進していきます。

経済学科 准教授 相原 正道



第40回 三蔵祭

三蔵祭を終えて

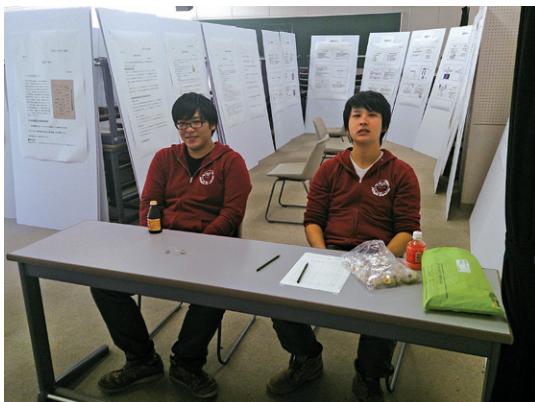
今年で40回目を迎えた三蔵祭は、「四十奏～全ての音色を一つに～」というテーマを掲げ、三蔵祭運営委員会一同は一致団結し、皆様に楽しんでいただけるよう全力を尽くしました。

特に、今年の大学祭はこの第40回三蔵祭へ携わってくださった皆様、そしてご来場していただきました方に大いに楽しんでもらいたいという思いで活動してきました。各学部・学科による展示や催し、多数のサークルや研究室による模擬店、様々なイベントやパフォーマンスに加えて、今回は同窓会からも展示や模擬店への出店協力をいただきました。その結果、多くの催しで盛り上げてくださった皆様と1つになれた素晴らしい三蔵祭になったと思います。特別企画では、「青山テルマ」「ケラケラ」「Galileo Galilei」「我龍」によるライブ、演奏及び公開録音を行い、さらに盛り上げることができました。また、今年の三蔵祭は例年見ることのなかった晴天であり、学内外の多くの方々に来場していただきました。みんなで一致団結し、日々、三蔵祭運営委員会の仲間で取り組みました。来場してくださった皆様の楽しんでいる様子を拝見することができ、三蔵祭運営委員会一同も最高の三蔵祭になったことをとてもうれしく思っております。さらに、三蔵祭全体を通して皆で1つの目標へと団結し、成し遂げていくという素晴らしい改めて実感することができました。学内外の協力してくださった皆様、この三蔵祭へと携わってくださった皆様、そしてご来場いただきました方々に心よりお礼申し上げます。来年も今年以上によい三蔵祭になるよう、運営委員会一同さらに努力していこうと思います。皆様、本当にありがとうございました。

第40回三蔵祭運営委員会 委員長 経済学部
第40回三蔵祭運営委員会 副委員長 人間文化学部 経済学科 3年 栗也 竜也
第40回三蔵祭運営委員会 委員長 経済学部
第40回三蔵祭運営委員会 副委員長 人間文化学部 心理学科 3年 伊藤 佑樹



経済学部 わたしたちの暮らす社会と経済



はゼミの模擬店にも参加したので、忙しいけれど楽しい三蔵祭でした。来年の三蔵祭では自分たちが中心になって、今年の経験を生かして、さらによい企画にしていけたらいいと思います。

経済学部では、「わたしたちの暮らす社会と経済」というテーマのもと、4つのゼミナールがそれぞれ研究成果をパネル形式で展示・発表しました。その中で、私たちのゼミでは「世界の抱える環境問題」という全体テーマで3班に分かれて「人口問題」「環境問題」「食糧問題」についてゼミで調査し、発表しました。私は「環境問題」グループに入り、主に中国のPM2.5による大気汚染、水質汚濁、砂漠化問題などについて調査しました。

3年生にして、初めて三蔵祭に携わることができました。グループのメンバーと協力して1つの作品を作り上げることは、とても楽しい作業でした。また、予想以上に多くの方々に見に来ていただき、来場者には2020東京オリンピック・パラリンピックのピンバッジを配り、喜んでいただきました。熱心に見ていただけた方々から質問されたりもしましたが、うまく答えることができなかったのは反省点です。さらに、もっと多くの学生がかかわることができたら、なおいいと思いました。また、今年

税務会計学科 3年 北川 智也

人間文化学部 学科の<活動>を発表しました！

メディア情報文化学科では、三蔵祭初日に、作品展示を行いました。毎週の学科活動日を活用して各自制作を進め、映像作品はもちろん、立体アートやアプリ、写真、文字表現、絵画など、手がけるメディアは多岐に渡ります。今まで、あまり知ることのなかった仲間の得意分野やあらゆる表現手法に触れることができ、視野が広がるとともに“情報の伝達・処理技術”についても考えることができた有意義な空間でした。

また、2日目には、午前に3年生による研究発表、午後からは「第9回高校生CMコンテスト」の表彰式も行われました。今回の開催から部門も新設され、例年に比べて幅が広がり、より創造性豊かな作品が多く見受けられ、私たち在学生もとても刺激を受けました。

さらに、両日ともに大学をイメージしたゆるキャラ「ふくりん」のグッズが、制作チームのメンバーによって無料配布されました。定番のファイルやペンをはじめ、ラバーストラップなども今回は全品特別に無料配布されました。プロジェクトは、今後も続いていく予定です。今後どこかで見かけた際には、是非、応援してください」とうれしいです。



メディア情報文化学科 2年 住田 佳奈美

工学部 「みて・つくって・さわって」



加工するマウスパットと建築学科のランプシェード工作のワークショップなど、昨年よりにぎわった大学祭にすることことができたと思います。

建築・建設学科 4年 高田 朋孝

生命工学部 ワインプロジェクトを紹介しました！

生物工学科の展示では、今年度より取り組んでいる「福山大学ワインプロジェクト」を紹介することに決め、ワインについていろいろ調べたことをポスターにまとめて展示し、また、9月に収穫したブドウをフローズングレープにして試食してもらうことにしました。三歳祭までの準備期間は2週間と短く、醸酵科学研究室のメンバーや3年生と協力して作業を行いました。資料を先生方や図書館から借りて、ブドウの品種、ワインの製造法、世界のワイン産地について調べてポスターを作成し、また、生きた酵母を映す顕微鏡やワイン仕込み用機材なども展示して、充実した内容になったと思います。当日は多くの方々にご来場いただき、用意したポスターや機材を使って説明を行い、プロジェクトの内容を知ってもらうことができました。フローズングレープの試食は思いのほか好評で、酸味のあるマスカット・ベリーAと甘くて皮も食べられるシャインマスカットの人気が二分したのが、大変興味深かったです。来年は、プロジェクトで作ったワインについての結果も展示に盛り込んで、来場者により一層アピールできるよう後輩に期待します。

生物工学科 4年 久保田 匡博



薬学部 運営班・化学班・薬局班



多くの仲間の協力があったからです。本当にありがとうございました。

薬学部の研究発表は、運営班・化学班・薬局班の3つの班が10号館で行いました。運営班では、毎年恒例の「体力測定」「紫雲膏の調製」に加え、今年は「生活習慣病」をテーマとして、糖尿病とそれが惹き起こす合併症についても発表しました。化学班では、ジアゾカップリング反応を利用した「ハンカチの染色」やプラスチック板に絵を描き、加熱して加工する「プラスチック板づくり」など身近にある化学を体験してもらいました。薬局班では、毎年好評を得ている「ハンドクリーム」「肩こり用液剤のカタコリーナ」「消臭剤」などの作成や「調剤用分包機による入浴剤の分包体験」を行いました。また、漢方薬の種類や作用などについても発表しました。さらに、今年は運営班が「ナンカレーとポップコーン」、薬局班が「フランクフルト」と模擬店を出店し、どちらも好評でした。三歳祭の期間中、会場に来られた方々が楽しんでいる様子を見ることができ、大変うれしく思いました。

最後に、無事に三歳祭を終えることができたのは、多

くの仲間の協力があったからです。本当にありがとうございました。

第13回 ロボットコンテスト

今年で、工学部主催の大学祭ロボットコンテストは13回目となります。今年度は、昨年までとは大きく異なり、ウインドカー競技となりました。参加者からは内容が大きく変わり、製作するのに苦労したとの声もありましたが、高等学校1校、中学校2校の計3校5チームの参加がありました。難しい大会でしたが、優勝は福山市立済美中学校のチームで「済美1号」でした。

機械システム工学科 講師 小林 正明



四国EVラリー2014で2年連続優勝！



四国EVラリーへの参加は、今年で3回目となります。今年は、8月に愛媛県上島町で開催されました。EVラリーは、EV（電気自動車）で公道上のチェックポイントを廻り、ポイントを得ていき、獲得ポイントにより順位が決定します。「EV学生製作プロジェクト（みらい工学教育プロジェクト）」では、2年連続でクラス優勝を果たすことができました。

機械システム工学科 講師 小林 正明

第9回 高校生CMコンテスト

恒例の「高校生CMコンテスト」を開催し、本年は写真作品の部も加わり、多数の応募が集まりました。厳正な審査の結果、集まった力作から各賞が選ばれました（受賞作品の詳細は、本学科ウェブサイトをご覧ください）。また、10月19日（日）の学生運営による表彰式にも多くの受賞者が参加してください、作品に込められた想いを伝えてくれました。

ウェブサイト <http://www.fukuyama-u.ac.jp/media/original/entry-1582.html>



メディア情報文化学科 准教授 安田 晴

第12回 広島県高校生英語スピーチコンテスト



三蔵祭（大学祭）期間中の土曜日の午後（10月18日）、恒例の第12回広島県高校生英語スピーチコンテストが開催されました。県内11の高校から21名が参加し、熱のこもった英語スピーチが繰り広げられました。審査を待つ間に音楽室で交流会が催され、参加者や引率の先生、付き添いの方などが和やかに交流しました。審査の結果、広島女学院高等学校2年生が、みごと大賞に輝きました。

国際センター国際交流部 岩本 博行



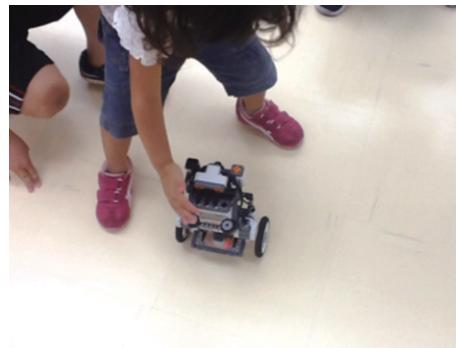
地域連携活動

「備後ものづくりフェア2014」に出展！

9月13日(土), R i M - f (リム・ふくやま)の7階に「福山市ものづくり交流館」がオープンしました。そのオープニングイベントとして、9月13日(土)～14日(日)の2日間で「備後ものづくりフェア2014」が、ものづくり交流館の市民ギャラリーで開催されました。この展示会では、福山大学や福山平成大学をはじめとする学校関係、公設試、そして地元企業などから33のブースが出展しました。福山大学からは、工学部とスマートシステム学科が出展し、工学部のブースでは建築学科、情報工学科、機械システム工学科の学科紹介と工学部の特徴的な科目である学科横断型プロジェクト教育「みらい工学プロジェクト」の各テーマを紹介するパネル展示を行いました。折しも、9月13日(土)はみらい工学プロジェクトのテーマの1つである「E Tロボコンに挑戦」の参加者の成果のお披露目の場である「E Tロボコン2014中四国地区大会」が、学校法人福山大学宮地茂記念館で開催されていたため、大会のライブ中継をブースで放映するという演出も行っており、足を止めて観戦してくださる方々もおられました。一方、今年度からスタートしたスマートシステム学科のブースでは、スマートシステムとは何かを紹介するためのデモンストレーションが行われていました。スマートシステムの要素をビジュアライズした3つのキーライブアイテム「赤外線測距センサーの作用で自分の体の動きに合わせて踊るアバター」、「実画像の上に虚像(イメージ)が写りこむ拡張現実(AR)と呼ばれる技術」、そして「障害物を回避しながらちよこまかと動き回る倒立振子ロボット」が展示され、訪れる人々を楽しませていました。特に、倒立振子ロボットは子どもたちに大人気で、もうもみくちゃにかわいがられていました。また、小型衛星打上げプロジェクトの説明展示もあり、興味を引いていました。

さて、今回の展示会は満員御礼とまではならなかったと思いますが、気軽に足を運んでくださった方々が多かったのではないかでしょうか。卒業生が偶然に訪れてくれたり、何気なく寄ってみてくださった市民の方々との話に花が咲いたりと、そこはかとなく心地よい展示会だった気がします。メイン会場となった市民ギャラリーはとても広く、また、ものづくり交流館にはギャラリーの他にも工房やセミナールームなどがあり、今後の効果的な活用が期待されるところです。

社会連携センター 産学連携部長 香川 直己



工学部とスマートシステム学科の展示エリア

E Tロボコンのライブ中継に見入る来場者

子どもたちの人気者。もみくちゃにかわいがられている倒立振子ロボット

「第4回 府中学びフェスタ」へ参加！

府中市立総合体育館(ウッドアリーナ)を会場として、「第4回 府中学びフェスタ」が10月25日(土)～26日(日)の2日間にわたり、開催されました。フェスタでは「学び」をキーワードとして、市内外の学校や地域サークルの文化系活動の発表の他に、青春ダンスコンテストなどの体育系行事も企画されていました。福山大学は、協力校としては2回目の参加であり、薬学部からは「理科実験」「健康測定」「再生医療に関する展示」のコーナーを設けました。来客者はテントからはみ出すほどにぎわいで、学生ボランティア4名と教員3名が学びのキッカケを提供しました。理科実験コーナーでは、昨年も体験された方が来られ「今年も楽しみにしていました！実験ファンになりました！」というありがたい言葉もいただきました。さらに、経済学部の相原ゼミによる「雑巾がけレース」やダンス部による「チアダンス」も行われ、会場を元気いっぱいに盛り上げていました。その様子は、10月28日付けの学長室ブログ(http://blog.fuext.fukuyama-u.ac.jp/2014/10/blog-post_39.html)に紹介されていますので、是非、ご覧ください。

薬学部 講師 松岡 浩史



「2014年度 福山大学公開講座」について

福山大学公開講座を、福山大学と三原市中央公民館中講堂の2会場で9月から11月にかけて「ひと・まち・くらし」というテーマで実施しました。地域の産業界や近隣の自治体組織と連携して知的資源を地域に提供したり、地域で活躍できる幅広い人材を育成したりするなど、地域の活性化につながるようなテーマで講義を行いました。テーマ及び講師は、次のとおりです。

回	福山	三原	講座名	講 師
1	9/20	9/24	地域に眠る酵母菌を発掘し、花開かす	生命工学部 久富泰資 教授
2	9/27	10/ 1	備後のローカル・メディア、地域活動	人間文化学部 阿部 純 講師
3	10/ 4	10/ 8	持続可能な自動車交通を目指して	工学部 清水 光 教授
4	10/11	10/22	地域社会と中小企業	経済学部 中沢孝夫 教授
5	11/ 1	10/29	くすりの影に迫る—薬剤アレルギー	薬学部 宇野勝次 教授

また、閉講式において5回中4回以上の出席者に、修了証書を授与しました。会場ごとの出席者数及び修了者数は、福山会場では延べ出席者数537人、修了者数79人、三原会場では延べ出席者数253人、修了者数44人でした。来年度も、地域の方々への情報発信の場として貢献していきたいと思います。

社会連携センター 知財・地域連携部長 三輪 泰彦



「備後経済論」について

備後経済論は、地元有力企業の経営者等を講師に招き、備後経済の理解を深めたり就職活動の参考にするため、平成15年度から開講されています。講義の内容は、企業立ち上げ時の苦心談や経営理念、若い世代へのメッセージなどを語ってもらう形式となっています。また、講師の先生方には毎回工夫を凝らして講義をしていただいている、後期の木曜日の4限に、1号館01101教室で経済学部2~4年生約250名の学生が受講しており、熱心に聴講しています。

【備後経済コースの柱】

平成26年度より、税務会計学科の中に「備後経済コース」が設置され、この備後経済論がその主力の講義となっています。備後の経済を学ぶ学生にとって、重要な科目として位置づけられています。

【講演者】

今までに140名もの方に講演を行っていただいている（予定も含みます）、職種は非常にバラエティに富んでいます。企業経営者が中心ですが、他に能役者や神主など文化面での講演も行っています。しかし、備後地域の企業の代表者の方々にお願いをしているため、備後地域以外の方、あるいは代表者でない方にはお願いができません。そのため、是非ともこの人！と思っても無理なので、その時は本当に残念でなりません。

【一般参加】

一般の方々も毎回何名かは聴講されており、学外にも広く周知されています。さらに、地元経済紙の協力のもと、掲載も毎回行われています。これを読むのを毎回楽しみにしている人も多いと聞いています。

【苦労談】

この備後経済論は、後期の15回講義となっていますが、1年間を通じて取り組んでいます。まず、講師の選定には非常に苦労をしています。毎年、講師を13名程度確保しなければならないため、来年度の講師選定を講義が始まる10月頃から行っています。講師の方々からの紹介や経済団体からの紹介もありますが、有力企業があればすぐアポイントをとり訪問をしています。一番大変だったのは3年前で、紹介を受けて企業訪問をしたのですが、連続5回もダメと言われ、非常に落胆しました。すでに6月に入っていますが、果たして講義ができるのだろうかと何回も夜中に目が覚めて悩んだことがあります。また、冊子を作るのも一苦労です。毎回録音をとり、文章にまとめて整理統一し、さらに各講師へ確認をとり、夏ごろには完成させなければいけません。気が抜けない日々が続きます。

【今後の抱負】

このようにして開講となります。学生からは「今回の講演を聞いて大変参考になりました。社長さんのように頑張りたいと思います。」というように、非常に好評を得ています。苦労が絶えないのですが、今後も継続して講義ができるよう頑張っていきたいと思います。

税務会計学科 准教授 小林 正和

「広島県グローバル支援育成事業」について

昨年度に引き続き、広島県によるグローバル人材育成への補助事業を実施しています。具体的なテーマを「国際経営を理解する人材育成と備後企業の取り組み」として本学が幹事校となり、福山平成大学、福山市立大学、尾道市立大学と連携して実施している事業です。講義は、土曜日の午前中に最初の1コマ目を大学の教授による国際経営についての講義を、次の2コマ目でケーススタディとして備後企業の海外展開の実際について説明を受け、その後、質疑応答の時間を持つ形式で実施しています。また、講義内容はカメラで撮影し、その映像を尾道市立大学キャンパスに遠隔配信しています。

本事業の大きな特色としては、講義終了後に海外研修を実施できる点です。渡航費用については、広島県から半額の補助が与えられており、昨年度の海外研修は2月にベトナムのホーチミンで実施しました。ホーチミンでの訪問先は、国際協力機構 JICA、貿易振興機構 JETRO、広島県産業振興機構から推薦していただいたコンサルタント AGS、山九(株)、(株)サンエスの電子工場と繊維工場、金型製作のムトー精工(株)です。海外研修に参加した学生は、貴重な体験をすることにより、訪問先でも積極的にコミュニケーションをとることができるようになり、大きな成長がみられました。なお、今年度は12月中旬に実施時期を前倒しして、ホーチミンで実施する予定です。

また、本期の概要としては、第1に学生数が学校法人福山大学宮地茂記念館での受講者数59名及び尾道市立大学キャンパス12名の合計71名であることです。このうち、社会人は16名受講しており、海外研修に参加するのは26名です。第2に講義担当の大学の教授としては、兵庫県立大学の梅野巨利教授が3回、福山大学の中沢孝夫教授が2回、東京大学の新宅純二郎教授及び神戸大学の黄磷教授にそれぞれ1回の講義をしていただきました。教授間で、それぞれの講義テーマを特に統一して決めているわけではありませんが、梅野教授が3回行う講義では、最初に問題を設定しておいて学生に通知し、後で少人数のグループに分かれてその問題について議論を深め、報告するというスマート・グループ・ディスカッション(SGD)を実施していますが、学生は熱心に取り組み、講義の終了時間を忘れるほど議論が活発化し、楽しんで受講しています。

さらに、備後企業のケーススタディとしては、(株)広島銀行、(株)シギヤ精機製作所、早川ゴム(株)、(株)北川鉄工所、リヨービ(株)、ホーコス(株)、日東製綱(株)、(株)堀田組にお願いしており、各企業の実務担当者に講義をしていただけております。なお、(株)広島銀行には本期から参加していただきました。様々な備後企業の海外展開の実情を具体的に学修し、さらに質疑応答まで可能なため、学生にとってはまたとない企業研究の機会ともなっています。

国際経済学科 教授 尾田 温俊



「2014 BINGO オープン インターンシップ」について



今年度で5年目を迎えた「BINGO オープン インターンシップ」は、一昨年から文部科学省が進めている「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の一環として活動しており、本年度は規模の拡大と内容の充実を計りつつ運営しました。一昨年に設立した人材育成事業推進室である通称『自分未来創造室』が中心となってインターンシップを牽引したこともあり、本年度は質量ともに充実したインターンシップを実現することができました。

地域産業界に積極的に働きかけた結果、今年度はインターンシップ受け入れ可能企業が87社(昨年54社)に増大しました。例年通り、企業～学生間のミスマッチを防ぐため、受け入れ可能企業に一堂に集まってもらい、学内でインターンシップ参加希望学生に対する合同企業説明会を6月6日(金)に実施しました。その後、履歴書の提出や面談など事務手続きを経た上で、夏季休暇期間中に延べ104人の学生が62社の企業・団体でインターンシップを体験してきました。延べ86人の学生が39社の企業・団体で研修した昨年に比べると、今年のインターンシップの規模は飛躍的に拡大しました。今年、特筆すべきことは、文部科学省の事業で連携する他大学から計13名の学生をBINGO オープン インターンシップに受け入れたことで、これは大学間の垣根を越えた大きな第一歩です。

受け入れ企業の増加、学生の参加意欲の向上などインターンシップに対する関心が高まったこの機会に、内容的にも充実させようと考え、今年もインターンシップの以前と以後の活動を充実させることで、インターンシップで得られた貴重な体験を学生が自分の中にできるように配慮して運営しました。事前の活動としては、専門の講師を招いて社会人としてのマナー等を講義してもらい、講習・討議を通じて参加学生たちのインターンシップに対するモチベーションを高める事前研修会を8月7日(木)～8日(金)に実施しました。事後の活動としても、10月7日(火)、9日(木)、10日(金)に学内発表会を、さらに11月22日(土)に学外発表会を開催しました。この活動は、学内の後輩たちに、また学外の企業・団体及び他大学の人たちにインターンシップで得られた自らの体験・成果を発表する催しですが、第三者に説明し、理解してもらおうとする作業からやり放しのインターンシップでは得られない、実りある何かが身についたものと思います。

以上の活動と並行して、評価システムを充実させました。インターンシップ以前・以後の自己診断、受け入れ企業からの評価に加え、各種アンケート結果を分析することで、いろいろな面から自分を、そして自分の成長を見直し・見詰めることができたはずで、これらを今後の自分の人生設計に、また人生を歩む上で活用してもらいたいと思います。

キャリア形成支援委員長 布施 守雄

「日本家政学会学会賞」及び「日本調理科学会功労賞」をW受賞！

5月24日(土)に、福岡県北九州市で開催された日本家政学会第66回大会において、「野菜・果実のペクチン質に関する調理科学的研究」で日本家政学会賞を受賞しました。学会賞は、家政学に関する研究分野において顕著な業績をあげ、現在も研究活動を継続している研究者に授与される賞です。さらに、8月29日(金)には、広島市で開催された日本調理科学会平成26年度大会で、日本調理科学会功労賞も受賞しました。功労賞は、永年にわたり調理科学の発展、普及、教育に貢献した会員に授与される賞です。

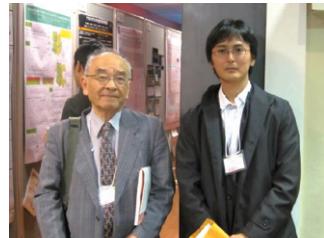
昭和45年頃より現在に至るまでの40数年間、主として、加熱・冷凍・高圧・乾燥などの調理・加工操作による野菜・果実などの植物性食品の物性・微細構造の変化とペクチン質の関係に関する研究に取り組みました。ペクチン質は、ガラクツロン酸が直鎖状に繋がった高分子化合物で、植物の細胞壁に存在し、細胞同士の接着にかかわって植物に適当な硬さを与えていました。ペクチンは、ガラクツロン酸のカルボキシル基がメチル基によって種々の程度にエステル化されていますが、その量や分布の仕方等は植物の種類や生育条件、成熟度などにより異なっているため、調理・加工後のテクスチャーには個体差が存在します。野菜を加熱調理する際の軟化機構をペクチン質の挙動から検討し、煮熟軟化に煮汁のpHが大きく影響することを明らかにしました。すなわち、pH 5以上ではペクチンが β -脱離により、pH 3以下では加水分解により分解して煮汁中に溶出するため軟化し、pH 4付近では両反応が起きにくいため、軟化しにくいなど、酢レンコンや酢ゴボウなどの歯触りがよい原因を解明しました。また、 β -脱離はメトキシル基がある箇所で起こり、アルカリ性で促進するため、エステル化度が高いペクチンを多く含む野菜ほど軟化しやすく、煮豆に重曹を入れると軟化が促進することも明らかにしました。続いて、煮汁中の各種イオン類の軟化・硬化への影響についても研究しました。さらに、60°Cでの予加熱や乾燥、高圧処理などを行うと、ペクチンメチルエステラーゼが作用してペクチンのエステル化度が低下するため、 β -脱離しにくくなり、再び加熱しても軟化しにくいことを化学的測定、物性測定、クライオ走査電子顕微鏡による細胞壁の観察などにより証明しました。また、冷凍食品の軟化防止についての研究では、高圧力下では-20°Cでも凍らない現象も利用しました。すなわち、200 MPa, -20°Cの不凍域に食品を置いた後、圧力解除すると急速凍結(圧力移動凍結)するため、冷凍による組織損傷が防止できることを野菜やゲル状食品などで証明しました。このように、調理を科学の視点から解明し、国際的に発信したことが評価され、受賞につながりました。これらの研究は、共同研究者の皆様や岡山県立大学、福山大学のゼミ生の協力によるものです。この場をお借りし、感謝申し上げます。

生命栄養科学科 教授 淳上 倫子



モロシヌス研究会「森脇和郎賞」を受賞！

6月27日(金)～28日(土)に、静岡県伊豆市で開催された第28回モロシヌス研究会で「森脇和郎賞」を受賞しました。身に余る賞を受賞することができ、大変光栄に感じるとともに、お世話になった皆様には感謝に堪えません。読者の皆様がまず感じるのは「モロシヌスって何?」ということだと思います。モロシヌスとは、日本のマウス(ハツカネズミ)のことです。マウスは、生命機能を解明するためのモデル動物として、生命科学や医学の分野で確固たる地位を確立しています。モロシヌス研究会の参加者の専門分野を一言で言うと、「マウスの遺伝学を通して生命現象の普遍性を明らかにすること」です。私のような野生生物を対象とした生物多様性研究を専門とする研究者が受賞したのは、初めてのことのようです。私は、平成19年に兵庫県の淡路島で開催された第21回大会で本研究会に初めて参加しました。ノーベル賞を受賞される前の京都大学の山中伸弥教授の講演を聞いて、この研究会のレベルの高さにど肝を抜かれるとともに、ジョークを交えた山中教授の講演に感銘を受けたのを覚えております。平成21年に初めて発表を行いましたが、その時のタイトルは「ヘモグロビン β 鎖遺伝子から見た野生ハツカネズミゲノムの複雑な由来」というもので、実は賞の名前にある森脇和郎先生とともにやってきた研究内容でした。



ヘモグロビンは、赤血球の中に存在するタンパク質で酸素の運搬を担います。野生由来マウスを対象に、ヘモグロビン β 鎖遺伝子のDNA塩基配列を決定したところ、異なる亜種の間で頻繁にハイブリッドが生じていることが明らかとなりました。この研究を中心に「哺乳類の進化遺伝学的研究：モロシヌスマウスの由来と環境適応の解明に向けて」というタイトルで受賞しました。受賞講演では、マウスは生命機能だけではなく環境適応を解明するためのモデルになると主張してきました。

森脇先生は国立遺伝学研究所を退官された後、平成6年4月～平成7年3月まで本学の生物工学科で教授を務められ、その時にマウスの仕事を本学に残されました。私は、平成15年に福山大学に着任してから約10年にわたり、森脇先生と同学科の山口泰典先生の指導を仰ぎながら、前記の研究を進めてきました。残念ながら、森脇先生は平成25年11月に帰らぬ人となりましたが、先生の最後の10年に指導を受けることができたのは人生における宝です。いつも本当におもしろそうに研究の話をしてくださいました。いろいろうまくいかなかった時には、「審査員は見る目がないなあ」とか「そのうちなんとかなるよ」と励ましてくださいました。平成24年に哺乳類学会で奨励賞を受賞した際には推薦をしていただき、それまであまり認められなかった研究について「大変深い内容だった」と言ってくださいました。私の教育における考えにも大きな影響を与えてくれた、そんな大きな先生でした。森脇先生の名前の入った賞をいただくことができ、本当にうれしく思っています。

生物工学科 准教授 佐藤 淳

留学等体験記

アメリカ留学体験

生命工学部 海洋生物科学科 2年 中野 茉優子
(愛知県立国府高等学校出身)



私は、昔から海外の文化に触れてみたいと思っていた。しかしながら、アメリカには一度も足を踏み入れたことがありませんでした。1号館に貼り出された夏期集中英語研修を見て、英語を学びながらアメリカの文化に触れられるなら行こうと思い、このプログラムに参加しました。

アメリカに行った初日はホストファミリーと会い、いろいろなことを話してくれましたが、速くて聞き取ることができませんでした。また、1週間目の授業でも緊張してしまい、話がきちんと聞き取れませんでした。1ランク下げたクラスに行きたいとも考えましたが、2週間目の授業を聞いた時に、1週間目よりは英語を聞き取れないと感じてそのままのクラスで頑張ろうと思いました。クラスメイトも優しくて、こちらが話すことを理解するようにしてくれました。1ヶ月の間に英語を話すことがうまくなつたとは思いませんが、とても充実していたと思います。

ソフィア大学への交換留学

工学部 建築・建設学科 3年 洲崎 真那
(広島県立福山誠之館高等学校出身)

ブルガリアの首都にあるソフィア大学で、現在、半年間の留学をしています。初めての海外暮らしは同室がドイツ人だったので、英語での会話でした。また、周りも英語やブルガリア語での会話だったため、理解するのに必死でした。ただ、その中でも友達が皆さん優しくて、とても励まされました。そして、留学中は国内外へたくさん旅行に出かけました。これはかけがえのない思い出であり、人生の中で大事な経験となりました。

留学では、自分の未熟な部分と向き合うことが多いです。それは苦しいこともあります、私はその課題を少しづつでも乗り越えていく中で自分の成長を感じました。留学は、それぞれにまだ知らない世界をみれるものだと思いました。



貴州師範大学への交換留学

経済学部 国際経済学科 3年 永尾 大地
(愛媛県立松山北高等学校出身)



中国の貴州省にある貴州師範大学へ、1年間留学をしています。こちらに来てまだ1ヶ月半ほどですが、これまでを振り返ると語学面はもちろん、食事や環境の違いなどたくさんの困難がありました。貴州省の方言や貴州料理は、辛くてよくお腹を壊したり日本人はもちろん、こちらは留学生もかなり少ないです。しかし、その分たくさんの刺激を受け、中国人の友達にも恵まれ、とても良い留学生活を過ごしています。

授業では、留学生の人数が少ないこともあります、発言する機会が多く、会話力に力がついているなと最近感じ始めました。休日である国慶節には中国の友人の結婚式に参加したり、マオタイが有名なのでお酒の博覧会や凱里、鎮遠で私が興味のあった少数民族のミャオ族に会ったりと、素晴らしい景色を見ることができました。ようやく慣れてきた頃なので、これからは語学力を高め、友達とたくさん話せるようになります。最後に、留学は楽しいことばかりではありません。文化の違いや考え方方が違うため、大変なことが多いと思いますが、実際にやってみることにより、学ぶことが多く自分自身の成長にも繋がると思います。今後は、もっと行動を起こしてより充実した留学生活になるように頑張ります。

学友会短信

【サッカー部】

- 8月8日～17日
2014年度第38回総理大臣杯
全日本大学サッカートーナメント
大会出場（1回戦で鹿屋体育大学
に惜敗）
- 4月20日～11月9日
2014中国大学サッカーリーグ
優勝、この結果、平成26年度第
63回全日本大学サッカー選手権
大会への出場権獲得
- 6月21日～11月8日
Iリーグ中国2014出場（福山
大学B第3位）

【硬式野球部】

- 9月6日～10月19日
平成26年度中国六大学野球秋季
リーグ戦出場（第5位）

【陸上競技部】

- 6月28日
第68回広島県陸上競技選手権出
場（8種目）
- 7月5日
秩父宮賜杯第67回西日本学生
陸上競技対校選手権大会出場
(10000mw) 清家将徳（経
済3年）
- 10月24日～26日
第37回中国四国学生陸上競技選
手権大会出場（17種目）

【剣道部】

- 7月18日
第6回全日本都道府県対抗女子剣
道優勝大会出場（広島県代表の次
鋒）野口真奈美（人間文化2年）
- 7月20日
第8回広島県学生剣道大会出場
- 11月3日
第7回天野杯剣道選手権大会出場
(団体：福山大学A第3位、男子個
人：第3位小早川祐貴（経済3年）)

【柔道部】

- 7月6日
第20回広島県柔道体重別選手権
大会出場
- 8月30日
平成26年度中国四国学生柔道体
重別選手権大会出場
- 8月31日
平成26年度中国四国学生柔道体
重別団体優勝大会出場
- 11月23日
第59回広島県学生柔道大会（会

場及び主幹校福山大学）

【卓球部】

- 8月29日～30日
第65回中国学生卓球選手権秋季
大会出場

【弓道部】

- 8月12日～14日
第62回全日本学生弓道選手権大
会出場（男子団体、女子団体及び
広島県予選通過により個人戦決勝戦
出場）松藤一樹（情報工2年）
- 8月29日
第40回広島県学生弓道男女リ
ーグ戦出場

【ゴルフ部】

- 7月3日
第38回中四国学生ゴルフ選手権
大会出場
- 8月20日～21日
第37回中四国学生ゴルフ連盟杯
争奪戦出場

【硬式庭球部】

- 9月1日～5日
平成26年度全日本大学対抗テニ
ス王座決定試合中国四国地区大会
出場
- 9月11日～21日
平成26年度夏季中国四国学生テ
ニス選手権大会出場
- 11月1日～8日
中国四国学生テニス新進トーナメ
ント大会出場

【ラグビー部】

- 9月13日～
第54回広島県リーグ戦出場

【軟式野球部】

- 11月17日～21日
平成26年度軟式野球秋季Ⅱ部
リーグ戦出場

【ソフトテニス部】

- 10月23日～26日
平成26年度第60回中国・四国
学生ソフトテニス選手権大会出場

【ボート部】

- 6月22日
第69回国民体育大会ボート競技
広島県予選会出場
- 7月20日
第69回国民体育大会ボート競技

中国ブロック大会出場（広島選抜
成年女子2×（ダブル））

【バドミントン部】

- 8月12日～13日
広島県学生バドミントンリーグ戦
出場

【スポーツ雪合戦同好会】

- 11月16日及び30日
第8回ふくやまスポーツ雪合戦大
会（会場及び運営福山大学）

【YRC（ボランティア）部】

- 7月12日
第12回わいわいフェスタ松永
参加
- 定期清掃活動実施（クリーン
ウォーキングJR松永駅・JR福
山駅・芦田川（月3回））

【管弦楽団】

- 7月12日
第12回わいわいフェスタ松永
参加

【三蔵祭運営委員会】

- 10月17日～19日
第40回三蔵祭実施「四十奏～全
ての音色を一つに～」

【学友会執行部】

- 7月1日～7日
七夕まつり実施（1号館前広場に
短冊飾り笹木設置）
- 8月7日
文化創造プロジェクト 文創祭実
施
- 10月17日
秋季学長杯争奪競技大会（三蔵祭）
ソフトボールの部、バスケット
ボール3on3の部実施



学務部 学生課

後援会情報 福山大学後援会役員会(理事会)開催される!

三蔵祭(大学祭)期間中の10月18日(土)の午前11時から、福山大学後援会役員会(理事会)が19号館1921教室で開催されました。猪原勝治会長の挨拶に続いて、松田文子学長の挨拶があり、その後、会長・副会長・監事・理事の自己紹介を行い、8月下旬から9月中旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成26年度理事から副会長と監事が新たに選出されました。また、期間中は大学会館前に後援会関係者の休憩用テントも設置しました。その他、広島土砂災害義援金を後援会費から寄贈させていただきました。



の自己紹介を行い、8月下旬から9月中旬に全国16会場で開催された後援会地区別総会の報告がありました。なお、平成26年度理事から副会長と監事が新たに選出されました。また、期間中は大学会館前に後援会関係者の休憩用テントも設置しました。その他、広島土砂災害義援金を後援会費から寄贈させていただきました。

総務部 庶務課

入試広報室から

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月9日(月)～13日(金)及び7月3日(木)の計6日間、近畿・中国・四国・沖縄の11会場で開催しました。参加者は、計12府県96校100名でした。

◆大学参観を兼ねた入試説明会

福山大学・福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を9月19日(金)に開催しました。参加教員の事前希望で、工学部新棟や因島キャンパス等、各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学宮地茂記念館で両大学の入試説明会が行われました。参加者は、10府県35校36名でした。

◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など23都市33会場で高校生・保護者・教員、総計625名の進学相談に応じました。

◆見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を7月5日(土)、9月6日(土)、体験入学会を7月20日(日)、8月24日(日)に開催しました。見学会の参加者は、7月5日(土)は高校生127名、保護者57名、計184名、9月6日(土)は高校生128名、保護者100名、計228名でした。体験入学会の参加者は、7月20日(日)は高校生376名、保護者199名、計575名、8月24日(日)は高校生425名、保護者212名、計637名でした。また、福山平成大学においても、6月28日(土)、9月6日(土)に見学会、7月27日(日)、8月23日(土)に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は、6月28日(土)は高校生114名、保護者37名、計151名、9月6日(土)は高校生100名、保護者31名、計131名でした。体験入学会の参加者は、7月27日(日)は高校生220名、保護者73名、計293名、8月23日(土)は高校生235名、保護者57名、計292名でした。

◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

5月中旬からの福山大学及び福山平成大学への訪問は、17校1,091名です。(11月末現在)

平成27年度前期入試A日程【特別奨学生A選抜含む】

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済学部・人間文化学部・工学部 生命工学部・薬学部	経営学部・福祉健康学部・看護学部
出願期間	平成27年1月5日(月)～1月24日(土)消印有効	
試験日	平成27年1月31日(土)～2月3日(火)※試験日自由選択制	
合格発表日	平成27年2月9日(月)	
試験地	【1/31～2/3】 本学(福山大学・福山平成大学)・福山(宮地茂記念館)・岡山・広島・山口・福岡 【1/31】 鳥取・浜田・宮崎 【2/1】 米子・大分 【2/2】 静岡・神戸・熊本 【2/3】 名古屋・京都・佐賀 【1/31・2/1】 東京・大阪・松山・高知・鹿児島 【2/2・2/3】 松江・高松・今治・小倉	

◇入学金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます。)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

編集後記

今回の学報第142号は、とりわけ話題の多いものとなりました。トピックスでは10件の記事を掲載し、大学での様々な活動の様子をお伝えできたかと思います。また、10月中旬には第40回三蔵祭が開催されました。天候にも恵まれ、多くの方々にお越しいただきましたが、その中で頑張る学生の姿をお伝えできたと思います。さらに、「研究の今」では、本学の教員が学会で表彰されるという喜ばしいニュースも掲載いたしました。今後も、本学の様子をわかりやすく伝えていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

発行 福山大学

編集 福山大学広報委員会

〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵

TEL (084) 936-2111 FAX (084) 936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>